

沖縄県庁舎建設概要



昭和61年3月



沖 縄 県



県庁舎の建設に当たって

県政運営の基盤をなす県庁舎は、かつての米国民政府、琉球政府の庁舎を引き継いで使用していますが、老朽化が著しく狭あいのため分散を余儀なくされており、効率的な行政運営と行政サービスに支障を来している状況にあります。このような状況を抜本的に改善し、行政機能の充実と県民への行政サービスの向上に資するとともに、新しい地方自治の象徴として新庁舎の建設を図る必要が生じてまいりました。

新しい県庁舎は、現在の敷地に行政棟、議会棟、警察棟の三棟を建設し、完成後には県の本庁機能を持つ全組織を収容する計画であります。

各庁舎は可能な限り高層化し、オープンスペースをできるだけ広く設けることとしています。県庁敷地の北側（国際通り側）に県民広場を設け、亜熱帯沖縄にふさわしい樹木を配し、特色ある修景と緑化を行ない県民の憩いの場とするとともに、県庁周辺の過密感の解消、並びに災害発生時の避難場所としても役立てることとしています。

県庁舎の建設については、昭和56年度の県の重点施策の中で県庁舎建設を「復帰10周年記念事業」として位置づけ、昭和58年には県庁舎建設に対して広く県民の意見を反映させるため県庁舎建設委員会を設置するなど検討してまいりました。

設計業務等の諸準備も完了し、いよいよ新庁舎の完成をめざし本年、行政棟を着工する運びとなっております。

今後とも県民皆様のご協力をお願い致します。

昭和61年3月

沖縄県知事 西銘順治

設計の基本理念

- (1) 沖縄の風土と文化を生かし、沖縄県を表象するにふさわしく、風格を備えた庁舎であること。
- (2) 高い機能性を備え、将来の行政需要に対応できる庁舎であること。
- (3) 省資源・省エネルギーによる経済性と安全性を考慮した庁舎であること。
- (4) 県民が親しめ、利便性に富み、かつ、文化的活動にも寄与する庁舎であること。
- (5) 周辺の都市環境整備に寄与する庁舎であること。

県庁舎の沿革

沖縄県庁舎は、明治12年の廃藩置県により琉球藩が沖縄県へ移行し、県政が施行されたのに伴いその建設の必要がありました。

当初県庁舎の位置を首里に予定していましたが、地理的な条件等から那覇に置くこととし、那覇市西村の元薩摩藩在勤の役所跡の内務省出張所を仮県庁として県政の第一歩を印しました。

明治14年（1881年）に同庁舎跡に県庁舎を建設し、以来40年間同庁舎を使用してきましたが、大正9年（1920年）に至り、県庁舎が現在の泉崎敷地に建設され西村から移転、去る大戦（1945年）により同庁舎が焼失するまで県政が同地で行なわれました。

戦後になって米国民政府が昭和28年に現第1庁舎及び昭和36年に第5庁舎を同地に建設し、一方琉球政府にあっては、立法院庁舎（現県議会庁舎）、司法庁舎（現第3庁舎）、行政府庁舎（現第2・第4庁舎）、警察庁舎等を建設し使用してきました。

昭和47年5月15日沖縄の本土復帰に伴いこれらの琉球政府庁舎を沖縄県の庁舎として使用してきました。



現在の県庁舎

県庁舎建設年次計画表

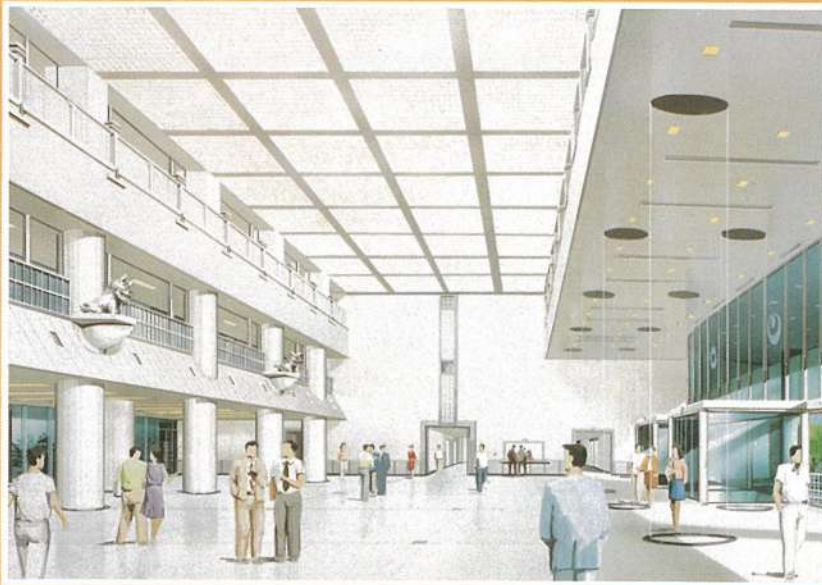
年 度	61	62	63	1	2	3	4	5	6
新庁舎建設工事	行政棟建設工事	■	■	■					
	行政棟外構工事				■				
	議会棟建設工事					■	■		
	議会棟外構工事								■
	警察棟建設工事						■	■	
	警察棟外構工事							■	



行政棟



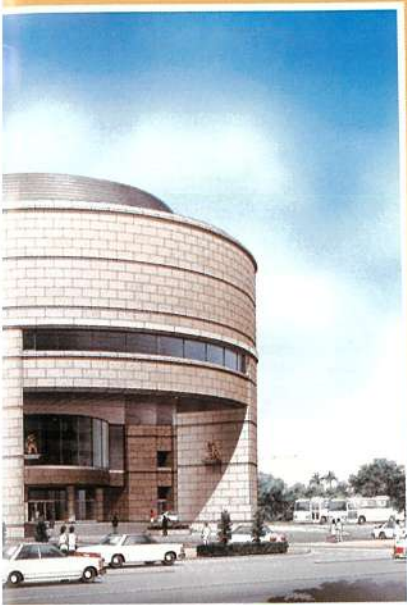
議事堂



県民ホール



県道39号線



棟

警察棟



全体配置図

計画概要

		行政棟	議会棟	警察棟
構	造	鉄骨鉄筋コンクリート造 (鉄筋コンクリート造) (一部鉄骨造)	鉄骨鉄筋コンクリート造 (鉄筋コンクリート造) (一部鉄骨造)	鉄骨鉄筋コンクリート造 (鉄筋コンクリート造) (一部鉄骨造)
階	数	地下2階 地上14階 地塔3階	地下1階 地上6階 地塔1階	地下1階 地上8階 地塔1階
設計 G L		那覇港平均海面+8,500	那覇港平均海面+3,500	那覇港平均海面+8,500
1 階 の 床 高		G L + 200	G L + 200	G L + 200
最 高 の 軒 高		58,100	27,200	39,700
最 高 の 高 さ		71,500	31,700	39,700
基準階	階 高	4,000	4,200	3,900
	天 井 高	2,700	2,700	2,700
建 築 面 積 (㎡)		4,746.30	2,742.45	3,353.70
全体建築面積(㎡) (建 蔽 率 %)		10,842.45 (26.6%)		
延 床 面 積 (㎡) (内駐車場面積)		78,243.25 (12,756.44)	14,392.45 (3,670.00)	23,373.90 (5,500.60)
全体延床面積(㎡) (容 積 率 %)		116,009.60(容積率対象床面積94,082.56) (230.4%)		
備 考		昭和 64 年 完 成 予 定	昭和 66 年 完 成 予 定	

建設経過

昭和53年4月 沖縄県庁舎整備委員会設置
 昭和54年4月 沖縄県庁舎整備基金条例制定
 昭和55年7月 昭和56年度の重点施策で県庁舎建設が「復帰10周年記念事業」として位置づけられる。
 昭和56年5月 総務部に県庁舎建設準備室を設置
 昭和58年2月 県議会全員協議会に「庁舎建設計画」を報告
 昭和58年7月 広く県民の意見を反映させるために県庁舎建設委員会を設置
 昭和58年11月 県庁舎建設委員会から「沖縄県庁舎建設基本構想(案)」が知事へ報告される。
 昭和58年12月 「沖縄県庁舎建設基本構想」策定
 昭和59年9月 行政棟、議会棟、警察棟の基本設計発注
 昭和60年3月 基本設計完了
 昭和60年6月 行政棟実施設計発注
 昭和61年2月 行政棟実施設計完了



県庁表札

沖縄県総務部県庁舎建設局

900

沖縄県那覇市泉崎1丁目2番地の32

電 話 (0988) 66-2006~8